

経営比較分析表（令和6年度決算）

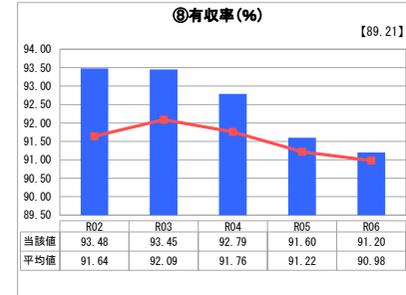
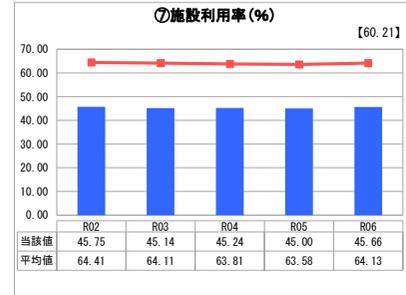
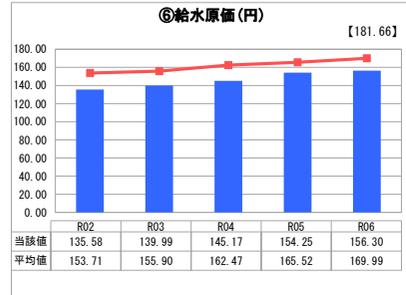
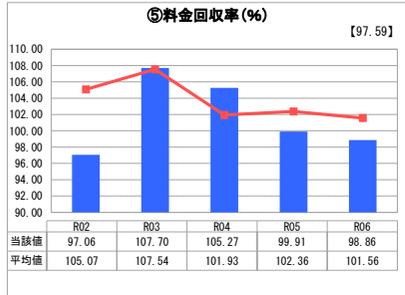
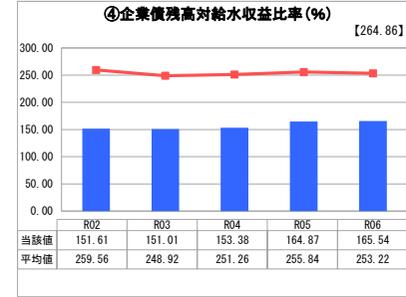
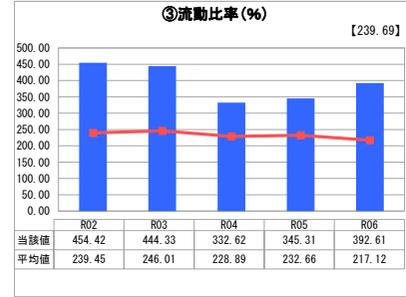
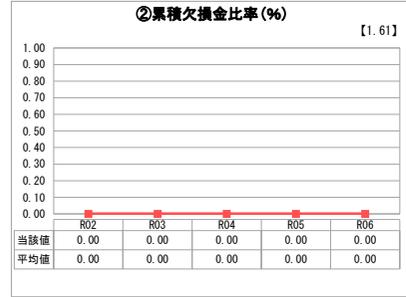
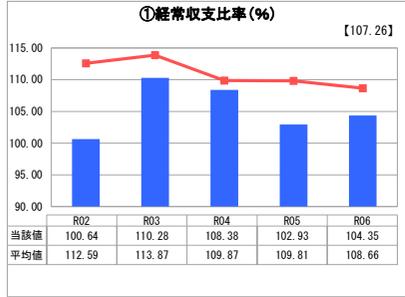
石川県 金沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員 その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	77.05	99.65	2,497	

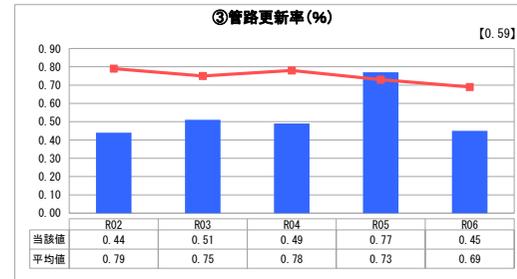
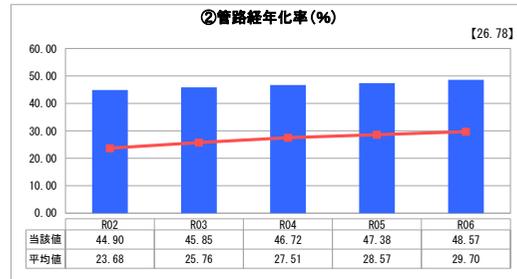
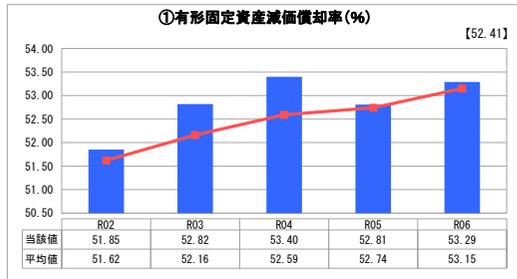
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
443,123	468.81	945.21
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
439,740	125.97	3,490.83

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[]	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、100%以上を超えており、安定経営を維持している。
 「③流動比率」は、類似団体平均値を大きく上回っており、短期的な支払能力を十分に有している。
 「④企業債残高対給水収益比率」は、自己資金の活用により企業債の発行額を抑制し、残高の低減に努めてきたことから、類似団体と比べ、極めて低い数値となっている。
 「⑥給水原価」は、監視システムの稼働による減価償却費等の増加により上昇傾向にある。
 「⑤料金回収率」は、給水原価が上昇したことにより、令和5年度以降は100%を下回っている。
 「⑦施設利用率」は、類似団体平均値を大きく下回っている。責任水量制により一定量の累水を受水していることによるもので、将来の水需要の減少を踏まえ、受水量の低減に向けた継続的な要望のほか、自己施設の更新に際しては、適正な施設規模での更新を実施する必要がある。
 「⑧有収率」は、前年度を下回ったものの、類似団体平均値を上回っており、施設の稼働が効果的に収益につながっている。

2. 老朽化の状況について

類似団体と比べ、「②管路経年率」は高く、「③管路更新率」は低くされており、法定耐用年数(40年)を経過した管路の割合は年々増加傾向にある。ただし、本市が主に採用しているダクタイル鑄鉄管は、条件によっては耐用年数を超えて使用できるとされており、管路の健全度が比較的高いことから、管種や老朽化の度合いのほか、AIの劣化予測診断結果に基づき、優先順位を付け、計画的な更新を進めることとしている。
 今後も、AIやIoT等最新技術を活用するとともに、アセットマネジメントの強化・高度化等により、効率的な更新に努めていく。

全体総括

現在、経営状況は概ね健全な状況にあると言える。ただし、水需要の減により料金収入の減少が見込まれることや、施設及び管路の老朽化が進み、更新投資のための資金需要の増加が見込まれ、経営環境は厳しくなることが予測される。
 今後、業務の見直しを通じた経費削減や、施設の更新等に際しては規模の適正化を図るなど、経営の効率性を一層高めるよう努めていく。